

令和6年度 あすなろ幼稚園 学校評価（教職員）結果報告

1 本園の教育目標

「豊かな情操と社会性をもつこども」

「我慢強い 頑張りのきくこども」

教育基本法、学校教育法及び幼稚園教育要領に基づき、私学教育の特色を生かして人間形成を行い、強く、正しく、明るく、優しく、豊かな情操と社会性を持つこどもの特に、苦難やつらさに耐えていける我慢強いがんばりのきく子どもを育てる。

2 本年度の重点教育目標

評価項目に沿い、自己点検、自己評価を実施することによって教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

粘り強く取り組む子の育成

3 評価項目

A十分に達成 B概ね達成 C取り組んでいるが不十分 D大幅な改善が必要

(1) 園運営について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園の教育目標や本年度の重点が職員間で共通理解が図られている		○		
2	施設設備等の教育環境の充実・設備に努めている		○		
3	園内の園務分掌・役割分担が明確に決まっている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

1 重点教育目標については、具体的な子どもの姿で表し、全職員の共通理解の下、園児一人一人の成長を大切にクラス経営の充実を目指すことができた。その結果、各行事や日常の活動において「粘り強く取り組む子」の姿を確認することができている。

また、重点目標の保護者への周知については、ホームページや連絡アプリ等において、保護者にも理解いただけるよう努めているものの、さらに年度初めに周知を徹底し、園が目指す方向性を明確にして職員や保護者の共通理解や協力を図っていきたい。

2 施設は経年劣化が進んでおり、床や天井の傷みやはがれなど気になる部分がある。月末の安全点検日の実施により、修繕が可能な部分や緊急性のある部分については、早急に対応できている。

3 園務分掌については、業務内容を文章化し、するべき役割を明確にして円滑な園運営に結び付けることができた。毎年、役割が変わるので詳細な引継内容を心がけ、職員間の対話と連携を密に取り組んでいく。

(2) 教育課程・指導計画について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	地域の自然や施設を活用した教育課程・指導計画を作成している		○		
2	園児の年齢や発達段階に応じた教育課程・指導計画を作成している	○			
3	常に行事や日常保育の反省を生かした指導計画の改善に努めている		○		
<p>【課題・成果等の考察～記述】</p> <p>1 幼稚園の教育目標「豊かな情操と社会性をもつ子ども」「我慢強い 頑張りのきくこども」の具現化のため、幼稚園教育要領を踏まえ、指導計画に加筆、修正を加えつつ、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した教育課程及び指導計画を作成している。とりわけ、今年度は地域にある図書館を指導計画に位置付け、活用できた。</p> <p>2 今年度は教育課程・年間指導計画の作成を全面的に見直し、目の前にいる園児の発達段階に合致した計画を作成することができた。</p> <p>3 各行事の反省を毎回、職員1人1人が文章に落とし、見える化した。各職員の多角的な観点からの反省を活かして、次年度への改善に結び付くよりよい指導計画の作成に結び付けていきたい。</p>					

(3) 環境構成について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園内外の清掃、整理整頓、換気、採光、室温、消毒に気を配り、安全に生活できる環境づくりをしている	○			
2	毎月、園内外の施設安全点検を実施し、修繕するよう努めている		○		
3	年齢や発達に応じた遊具、おもちゃ、教材、絵本等が準備されている	○			
<p>【課題・成果等の考察～記述】</p> <p>1 コロナ禍を機に、毎日の消毒・換気等感染症対策を徹底継続している。園庭に面する空き家対策も関係機関と連携をとって一定の策は講じることができた。</p> <p>2 毎月末に安全点検はしているものの園舎及び遊具等が古いため金額の張る修繕や全ての補充要請に即時に応じられない実態が課題となっている。</p> <p>3 玩具については各種補助金制度の活用で補充し、年齢や発達段階に応じた教材については職員間で話し合いながら整えられている。絵本については、毎年、各学年向けに数十冊補充されており、日々の読み聞かせに活用している。</p>					

(4) 指導内容・方法について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	遊びを通して集団生活のルールを学んだり、我慢や粘り強さを培う経験を意図的にさせている	○			
2	園児が意欲的に造形活動（描画・製作等）や音楽活動、運動遊びに取り組む時間を十分に設定している	○			
3	メリハリのある全体指導と個に応じたきめ細かな指導を心がけている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

- 1 全園児参加の集会などにおいて、集団生活のルールを話したり、日々の生活や遊び、行事への取組の中で、思い通りにはならないことへの我慢や苦手なことにもあきらめずに取り組み粘り強さを身に付けることができた。また、異年齢の友だちと関わる遊びの中では、「入れて」「これ貸して」「ごめんね」「ありがとう」など場に応じた言葉を使えるよう、声かけをしている。
- 2 リトミックなど音楽活動における参加は、毎回、意欲的に楽しんで参加をしている。造形活動は毎月実施しているが、園児の意欲的な参加には個々にばらつきがあり、十分に意欲を引き出すに至っていないため、職員間で効果的な指導方法など話し合いの場を設けたい。
- 3 メリハリのある指導については、職員同士で指摘・アドバイス・相談をし合える風土が構築されている。今後も、自己流の保育にならないよう幼稚園教育要領を再確認し、理解を深めた上で、よりよい子どもたちの成長に繋がる指導方法の向上を図りたい。また、子どもたちが、楽しい園生活を送り、園児の経験を豊かに広げることができるような工夫された保育内容の提供に努めていく。

(5) 保育者の資質向上について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	研修や研究会に自己課題をもって臨み、自己課題の改善や、自分の能力を一層高めるよう努めている	○			
2	幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を意識した活動を工夫展開し、指導に努めている		○		
3	園児の実態を把握し、興味関心に応じた活動を展開できるよう常に教材研究を行っている。	○			

【課題・成果等の考察～記述】

- 1 今年度は初任者がいるため、年間を通して計画的に自己課題を解決するための園内研修を進めることができた。職員の経験年数や特性を活かして互いに研鑽する風土が構築されている。

2 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿については、今年度、幼小連携の観点から就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされて繋がるように「アプローチカリキュラム」を作成した。日々、意識しながら保育に当たりたい。

3 子どもの興味関心に応じた活動を展開できるようケース会議を開いて、クラス運営や子どもの実態、成長、困り感のある子への指導方法など情報交換する場を設け、教材研究や指導方法の共通理解を図るなど、各教諭の学びの場となっている。

(6) 特別支援教育

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	特別な支援を必要とする園児について教職員全員で共通理解を図り、支援体制を整えている	○			
2	特別な支援を必要とする園児について関係機関との連携が適切に図られている	○			
3	特別支援教育について理解を深め、園児の困り感に対応する支援に努めている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

1 支援の必要な子どもの特徴や個々への対応について、有効な支援方法を職員全体で共有するケース会議を設けている。特に、大きな行事の際には、それぞれの子どもへの具体的な関わり方についていくつかのパターンを想定し、保護者にも了解を得て全職員で共通理解を図りながら取り組んでいる。

2 各種関係機関との連携については、コーディネーターが中心となり、保護者の同意を得た上で、個別の支援計画等を提供いただいたり、長期休業中を利用して関係機関での子どもの様子を見学したり、通常保育時には来園していただいたりするなど、双方向でのきめ細かい連携が図られている。

3 保護者とは、幼稚園での日常を気軽に話せる雰囲気づくりに努め、保護者の願いや思い、家庭での様子をこまめに聴いている。

(7) 家庭・地域との連携

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園だより・クラスだより・HP等で幼稚園の情報を適切に伝えている	○			
2	未就園児への園開放や保護者の要望に応じた預かり保育を実施し、子育て支援に努めている	○			

3	行事への積極的な参加や幼稚園運営への理解・協力を促している		○		
<p>【課題・成果等の考察～記述】</p> <p>1 園だより・クラスだより・HP・連絡アプリ等で日々の活動報告、各種連絡、子どもの成長の様子など継続的に幼稚園の情報を発信し、家庭地域へ幼稚園教育に対する理解を深めることができた。特に、日々の保育活動については、連絡アプリでほぼ毎日、活動写真や情報を発信しており、保護者からも高評価をいただいている。</p> <p>2 園開放を年間10回実施しており、来年度の入園につなげることができた。その際、子育て相談を受けることも多く、保護者の支援も実施できている。</p> <p>3 個人懇談週間を設定し、個々の子どもの様子や保護者からの要望などを聞き取り、意思疎通を図っている。コロナ禍からの流れで全ての行事への参加はまだ見合わせているが、父母の会役員が中心となって運営に協力いただいている。</p>					

(8) 危機管理について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園の施設の安全点検、消毒等の衛生管理をしっかり行っている	○			
2	諸費等の会計処理を正確に行っている	○			
3	保育等の問題や保護者から出た意見は必ず園長に報告している	○			

<p>【課題・成果等の考察～記述】</p> <p>1 毎月末に安全点検を全職員で実施し、安心・安全に生活できるよう努めるとともに、日々の消毒作業もこまめに取り組んでいるため、各種感染症の発生や蔓延を予防することができている。また、いかなる時も子ども自身が「自分の命は自分で守る」という意識をもち、子ども自らが行動できるよう育てていきたい。</p> <p>2 担任が諸費業務をしている実態であり、事務職員の配置によるより適正な会計処理を期待したい。来年度は教材費が値上がりすることから本部の対応として、教材費の予算を示す必要があると考える。</p> <p>3 帰りの打合せ等において、毎日のクラスの活動や成長の様子、問題等報告し合い、全職員で確認するとともに「ヒヤリハット」記録も忘れずに記入し、自分の保育に照らし合わせながら職員の危機意識の高揚を図っている。 今年度も特に大きな事故や怪我、苦情などなく保護者の協力の下、幼稚園運営ができたことに感謝したい。</p>					
--	--	--	--	--	--

4 学校関係者評価委員会記録

山田委員から

- 園内だけに留まらず、図書館や公園、動物園など地域の施設など園外の教育環境を活用して保育を進めていることがありがたい。
- 各種避難訓練などを通して子ども自身が自分の命を守る意識を育てている。
- コロナ前の行事（夕涼み会）などの復活を期待したい。
- 園庭での遊具施設の使用時は、引き続き、複数での見守りを継続し、事故の起きないように点検も含めて実施してほしい。

南條委員から

- 保育の質の向上を目指している点では、園長の意を踏まえ、重点目標に向かって全職員が取り組んでいる様子が良く伝わる。
- 地域の素材を教育課程に反映させ、有効活用している点が評価できる。
- 各種行事、活動の取組等について職員個々が文章化し、見える化して互いにコミュニケーションを取り合いながら次年度への改善に結び付ける取組がよい。
- HP を見たが、なかなか良く、子どもの様子がよく分かる。子どもを安心して預けられると感じた。
- アプローチカリキュラムを作成し、小学校に向けての準備を計画的に子どもたちを育てていることは安心感がある。